



お芝居大好き！九条の会～テアトル9 って何??

2004年、井上ひさし、大江健三郎等9名の著名人が日本国憲法九条を守る「九条の会」を結成。その呼びかけに応え、演劇鑑賞会の会員有志で2005年「お芝居大好き！九条の会～テアトル9」を作りました。

月1回世話人会を持ち、ニュースを発行しています。興味のある方は、一緒にしませんか？下記世話人までご連絡を！

「集団的自衛権行使容認」&「特定秘密保護法」反対！

6月21日 兵庫県弁護士会主催 兵庫大集会・パレードに参加しました



9000人が参加しました！



伊藤真さんの熱い話の後、パレードに出て行きました



みんなが動けば変えられます

5月17日、大阪維新の会がゴリ押ししてきた「大阪都構想」が否決され、葬り去られました。賛成票約69万、反対票約70万で約1万票差という僅差での反対派の勝利でした。

大阪市内に住んでいる僕も反対派の1人として街頭でのビラまき、宣伝活動に参加しましたが、投票日が近づくにつれ反対派の盛り上がりのすごさを実感しました。手書きビラをコピーして配っている人、たった一人で反対を呼び掛けて歩いている人など、比喩ではなく本当に町の角々でいろんな人が反対を呼び掛けていました。小さな力がたくさん集まった結果が1万票差の勝利になったのだと確信しています。世論を盛り上げ、変えていく原動力は小さくても一人一人の声を積み上げていくことだと実感しました。

さて、安倍内閣は憲法違反が明らかな安保関連法案を成立させようと必死の形相です。連日の国会前抗議活動は参加者が何万人とも伝えられており、世論調査でも反対の意見が多いことは明らかですが全く無視しています。もはや安倍政権の暴走を止める手段はないのでしょうか？

都構想反対で戦った経験から断言できます。とにかく反対の声を上げることです。例えば街頭で声を上げること、街頭で声を上げている人にエールを送ること、友人知人に伝えることです。まずは一人一人が動いてみることです。世論が盛り上げる方法はこれに尽きます。安倍政権に国民の底力を見せつけてやりましょう！

(ちかまつ・松浪孝史)

※ 6月21日の大集会に松浪さんはこのポスター持参で参加しました →

文化座 佐々木愛さん 講演会お知らせ

日時:11月8日(日) 14時00分～ 参加費:1,000円

会場:未定

※ 会場は現在調整中、決まり次第お知らせします。



☆ 引き続き「辺野古」にカンパを！ 例会場のテアトル9コーナーに、カンパBOXを置いています

～お芝居と平和 ⑫～ 「21年前と同じ芝居を観て」

1994年俳優座のラボ公演「フル・サークル」を観た。エーリヒ・レマルク作、勝田安彦演出、稽古場の狭い空間で1時間55分の緊迫した時間を過ごした。陥落寸前（1945年4月30日）ベルリンのアパートの一室に、ナチスに追われる政治犯ローゼが逃げ込んでくる。部屋の主アンナと、ローゼを執拗に追い詰めるゲシュタポの隊長シュミット、そしてローゼの三人が繰り広げる極限状況下の2日間の話である。ローゼを政治犯だと認めさせるために連れて来られたユダヤ人のカツが、口を割らずに窓から飛び降りる場面では「待って、もうすぐヒトラーが死ぬから」と叫びそうになったほどの臨場感があった。翌5月1日ソ連軍が侵攻してきて、先にこの部屋に現れるのはソ連兵かドイツ兵か、体制が変わる歴史の中で、どう生き残るかの策略が面白い。現れたソ連兵の前で、身分を隠したシュミットが、ローゼをドイツ兵だと言って自分は生き延びようとするが、アンナの機転で身の潔白が証明されたローゼにソ連兵は新しい体制側につくことを求めるが、頑として応じない。

2015年同じ芝居を観た。21年前は戦後書かれた作品と思って観ていたが、ソ連兵の要求を拒否したローゼが舞台の上から私たちに叫ぶ「手遅れになるまで待ってはいけない」という台詞に、今は戦前なのだという危機感が迫ってきた。（こぶたちゃん・菅原澄子）

手後れになる前に…

1945年4月30日、ベルリンのアパートの一室を舞台に、部屋の住人アンナ、収容所を脱走してきたローデ、ゲシュタポの隊長シュミットの3人を軸に物語が進みます。暗くて重いテーマですが、緊迫した雰囲気の間には思わず笑ってしまうような場面等もあり、約2時間あっという間に感じました。また会場が小規模だったので役者さん達との距離がとても近く、生っていいなと改めて感じる事ができました。一番印象に残っているのは、ローデの「俺にも罪がある。手遅れになるまで待っていた罪。奴らが力を蓄えるのを黙って許してしまった罪。」というセリフ。今日本で何が起きているのか、手遅れになる前にもう一度一人一人が、特に政治に無関心な人が多い私達の世代が、考え行動しなくてははいけないと強く感じました。

（熊貓・20代・S）

例会場「テアトル9コーナー」にお立ち寄りください！

テアトル9グッズのプラバン、また賛同者の方にはニュースをご用意しています。カンパも大歓迎！ ご連絡は下記まで
児玉 090-8209-2391 米田 090-8658-8579
谷中 090-2101-4579 田中 090-8493-3378

みなさん！《制服向上委員会》という アイドルグループをご存知ですか？！

制服向上委員会は1992年に結成され、活動の一時中断を経て、最近「ダッ！ダッ！脱原発の歌」など政治的主張を盛り込んだ歌などをうたう、10代を中心とした女の子たちのグループ。

その名の通り制服姿でうたったり踊ったり…でも、何よりも彼女たちの良いところは、大人たちに動かされているのではなく、自分たちで考え行動していること。これまでも、9条をはじめとした護憲や脱原発、そして人権問題などをテーマに活動しており、6月のある9条の会主催のイベントでは「諸悪の根源、自民党」「大きな態度の安倍総理」などと、自民党を批判する内容の歌をうたい、ちょっとした波紋も…。

歌はオリジナルに加え替え歌も多く、聴く人によってはかなり過激かも！？…ですが、この様な歌がうたえなくなる世の中になったら、それこそ大変！！「歌える場所があればどこへでも出かける」と言う彼女たち。そんな彼女たちのパフォーマンスを、一度観てみたいものです。（熊貓・YUKI）



俳優座公演 『フル・サークル』を観てきました！

命だけでなく良心をも奪い取る戦争

暗い闇の中、不気味な飛行気音や爆撃音が頭上を通り過ぎた時、まるで戦場にいるかの様な錯覚に陥りました。収容所から脱出してきた一人のドイツ人を、一幕はゲシュタポが、二幕はソ連軍の隊長や兵士たちが執拗に追いつめ、殺すか、殺されるかの駆け引きにとってもスリリングで緊迫感があり、このような事態が万一、身边に生じたらと思うと、そら恐ろしくなりました。誰が敵で、誰が味方が疑心暗鬼の中、戦争は人の命を奪うだけでなく、人の良心をも奪い取ってしまうものだと思知らされました。

反面どんな状況下にあっても、主人公のローデは個々の自由を叫び、正義の為には、たとえ愛する人の説得でも、心揺らぐことなく、強い精神の持ち主であることに、とても心動かされました。

タイムリーなこのお芝居を、是非多くの人に観てもらい「戦争」と「平和」について、一度真剣に考えて見て欲しいと思います。そしてその思いが、横へ横へと繋がっていくことを願っています。私は、この芝居に背中を押され、6月21日の大集会に参加しました。（まつぼっくり・中田泰代）